最初の復興委員會
きのふ縣廳で開會
知事、縣議その他を委員に
意見の交換を行ふ

復興計畫最初の委員會は六日午後三時から縣廳應接室に石黒知事、前田内務部長、吉田、澤瀬、坂本諸縣議、進藤殖銀頭取、關士縣農會幹事、佐々木商工會頭、小泉市議、廳内各課長、技術官出席し石黒知事よりこの度の災厄と應急措置に就いて報告說明し被害は激甚であり縣として殆んど手の下しやうのない事件であり恒久對策である復興には政府の力をかりるの外ない、よつて復興資金は國庫の補助によるか又は一千萬圓或は二千萬圓の融通を受くる場合極めて長期の元金償却の方法により利子は政府からの補給によりたい復興計畫に就いて良案あらば提示されたいと述べ各課長より關係施設其の他被害部の詳細說明あり意見の交換を行ひ案は各課に於て取りまとめ八日午後一時第二回委員會を開き審議することゝし四時散會した

復舊部と恒久對策部の
二部に分けて活躍
復興は飽くまで組織的に
石黒知事對策を語る

石黒知事は罹災地の復興策につき左の如く語る

今回の震災並びに津浪に對し政府、貴衆兩院も非常な同情を注ぎ陸海軍初め全國から多大の同情を賜はり臨機の處置が大體進み居るは感謝に堪えない、縣民に代り厚くお禮を申す次第である

×

今後の措置に關しては第一に衣食住の充實徹底を圖ることが必要で遺憾ない方法を講じたい、之を何時迄如何なる方法により支給するか早急に考慮する必要があり折角調査中である、第二に恒久の職業につく事で當分の間は復舊事業等に從事せしめて自活の途を辿らせる外特殊の仕事が他にあらば之に從事する樣努力もするし各種事業家、篤志家が此地方の人に仕事を與へてくれる事も必要である、親戚等に寄留するものには旅費を支給しても自活の途を得せしめたい

×

第三に罹災民の職業の復舊に就ては從來の職業を續けるものには器具機械を與へ生活を建てらるゝ樣に考へてやる、恒久的對策としては罹災者の多くは從來水產に從事してゐたのだから之をモット組織的に堅實に、ドシ〳〵やらせる、夫には丁度幸ひ水產々業組合が組織されたから之を擴大し全海岸線に亘り指導統制を圖りつゝやらせる、漁業とか工業とかの復興も行なはねばならぬが之も組織的に考へてやらねばならぬ、今度の災害に鑑みて未改修道路の改修、鐵道港灣の完成を圖る必要があり鐵道の速成も希望してやまない

×

住宅も今後は防波建築につき考慮を拂ふ必要がある、防波設備をなさず再び建築をなす事は災害を繰り返す事になる、今後は合同の力により更生を圖らねばならぬ、組合とか町村とか部落單位とかで漁業交通其他の事を進行せねばならぬ、又貯金食糧品の貯藏を考へねばならぬ、資金關係に就いては國庫の補助を仰がねばならぬし經費も出すが國から借る低利資金は長期据え置きのものとし利子は國家から補給する樣にされ度い、

×

今後の計畫は縣職員と縣會議員とで復興委員會を設け復舊部と恒久對策部とに分けて進める事にする

「キング」の大附錄！
(1)最新大日本地圖（新聞紙四頁大）
(2)名畫色紙六枚（市價各一圓以上）
(3)世界十傑肖像畫（壯麗優美）
(4)結婚職業運命判斷（四六判美本）
(5)格言俚諺集（四六判美本）
以上の五大附錄つきキング四月號は素敵な大評判!!

焦土に雪

釜石尾崎神社の燒跡

慘狀見るに忍びず
驅逐艦乘員の減食
釜石を中心に配給

（釜石電話）橫須賀鎭守府驅逐艦第一隊野風、沼風、神風、第四隊太刀風、秋風、帆風、第六隊雷電の各隊も四日以來本縣回航釜石港を中心として救護に活躍して居るが陸上救護隊が交通不便で活動が思ふ樣でないのに對し海洋は好條件に惠まれ活動は活潑で陸上救護隊の手の屆かぬ山間僻地にまで救護が行き屆き罹災者から非常に感謝されて居る五日迄に第二回の配給を終はり六日霰島が第二回の配給品を滿載して釜石港に入港各所に分配し同日午後第一隊は釜石に第四隊は宮古、第六隊は盛の各港に罹災地に急行したが二回迄の軍需配給品は岩手、青森、宮城の三縣下で毛布一萬三千五百枚、軍服一萬着、襦袢一萬枚、ビスケット一萬二千キロ、鑵詰一萬一千六百キロこの延食數十萬食、麥米三萬キロこの延食數五萬食右の外今回の災害地に對し海軍の高等官判任官一同から白米三百俵、砂糖三十俵、醬油百樽、鑵詰二萬四千九十キロ、漬物二百樽、菓子五十包を寄贈された

尚各驅逐艦は悲慘なる罹災者の窮狀を見るに忍びず綾里、越喜來では各艦乘組員が減食して食糧を配給した右について第一隊司令いなづま艦長川瀨大佐は次の如く語つてゐた

災害の報告を聞いて四日二十四節のフールスピードで飛んで來たが餘りにも悲慘な罹災地の狀態に驚いた第一回第二回の配給で十日までの食糧には充分間に合ふと思ふ今後の方針は縣當局と協議の上引揚げるともどうとも決定する被害狀況は岩手が最も甚だしく從つて配給も岩手三十五、宮城八、青森一の割合である

配給順調に進む

罹災地方面交通路の回復と各縣からの救援トラックの來着に相待つて縣及び各種團體の配給は順調に進捗し配給本部では井上農務課長を總務とし庶務配給品係兵事係自動車發送一關との連絡七係を置き一關町に配給所を特設し久慈盛宮古釜石の五町には地方出張員を配置し各集配所との連絡を密にし全機能を發揮して居り六日午後四時には大船渡久慈宮古小本の四港に食糧衣類を陸揚した驅逐艦入港し救助品を揚陸し海陸呼應して沿岸地帶の罹災民救援の物資配給に全力をあげてゐる

軍艦の活躍

（宮古にて菱谷特派員發）今次の大津浪で最も迅速に且つ應急處置を執り寒氣と飢ゑに泣く罹災民に神の如く嬉しがられたのは軍艦派遣で將兵乘組員の危險を冒しての奮鬪は涙ぐましいまでに勇壯なものであつた母艦嚴島は六日宮古港に向け驅逐艦小風、狹風二隻に毛布一千九百二十枚、服五千六百十着、シャツ二千三百四十枚、罐詰一千五百二十キロ、ビスケット二千九百キロを積載して宮古に向けた。下閉伊支廳では直ちに慰問救恤品を田老、小本、織笠、普代、船越その他罹災地に配給の手配を爲した

大船渡方面

衛戍司令部より大船渡方面へ派遣の井口中尉以下々士官兵十名は救恤品の配給罹災地實地調査を完了して六日午後二時歸還衛戍司令部に報告したが、井口中尉以下は三日午後十時大船渡町に到着直ちに配給を開始その三分の一を同町罹災民に配布したが四日は早朝から發動機船一隻を見つけて無理に出させ大船渡灣内罹災地をめぐりまづ大船渡町對岸の赤崎村生形部落に向つたが約三分の一は倒壞殘部は流失又は浸水にて殆んど全滅し罹災民はい役いづれも罹災して各々倒壞流失し部落の幹部が斯の如きため全く統制を失ひ救護配給を村役場書記一人にて行つてゐるため罹災民の慘狀甚だしく同所に配給品三分の一を配布更に同灣を出でゝ綾里村に向つたが全村流失倒壞甚だしく就中白濱部落は山手の字大久保の六戸を殘し全然流失しその日（四日正午）に至るまで未だ配給品が到着しなかつたので同地に配給品全部をおろし且つ山内軍醫の救護班を下船診療に當らしめて深夜大船渡町に歸還したものである

六十七小學校
殆んど閉鎖
死亡教員は五名
兒童は意外の數に上るか

東海岸を襲つた海嘯は大部分實業施設に甚大な被害を與へたがその範圍内に教育施設に及ぼした影響は判明分のみにても教員の死亡は田老校首席元田光雄（大正十四年二部卒二九）同代教赤沼なつ子（昭和六年師女卒二一）小本訓導谷川あさ（昭和五年二部卒二二）宿戸首席田村袈裟郎（昭和二年二部卒二七）同訓小原寅太郎（昭和五年一部卒二四）の五名で兒童の負傷者も相當數に上つてゐるらしく兒童の死亡は◇氣仙郡綾里二〇、越喜來三、米崎二、廣田七、小友二、末崎五、氣仙四◇上閉伊郡釜石二、安渡五、大槌五◇下閉伊郡小本二一、田野畑一七、普代一九◇九戸郡宿戸一八、野田六、久喜一六日午後四時半までに視學室に到達した電報のみでも百三十八名に達し被害最も激甚と云はれる田老村分全く不明なので未報告分を合したならば意外の數に上る豫想でありこのため震災地小學校の六十七校は殆んど學校を閉鎖し氣仙郡唐丹村、小白濱小學校の如き向ふ六十日間の臨時休業を縣に申請し來りたゞ不幸中の幸として流失校は上閉伊郡鵜住居村兩石分教場と浸水の氣仙郡越喜來一校に止まつた次第である

罹災救助基金
被害町村配當決定

罹災救助基金流用額二十六萬九千二百圓中縣では二十萬九千九百三圓の被害町村配當額を六日午後十時左の如く發表した

氣仙郡　大船渡二、〇六七圓▽高田二四八圓▽氣仙二、一三〇圓▽米崎七七四圓▽赤崎五、七七五圓▽吉濱八〇三圓▽越喜來五、二一〇圓▽綾里一〇、七七四圓▽廣田五、八七三圓▽小友一、七三九圓▽末崎一〇、六八六圓▽唐丹一〇、九四五圓

上閉伊郡　釜石三八、一〇四圓▽大槌二九、六三二圓▽鵜住居一一、八五七圓

下閉伊郡　宮古一、九六五圓▽山田一二、三四九圓▽船越九、一八四圓▽田老二〇、九九三圓▽重茂一、六二七圓▽津輕石二二七圓▽大澤三、六二五圓▽織笠一六三圓▽崎山一一八圓▽磯鷄一、五五五圓▽小本四、七四四圓▽田野畑五、二四九圓▽普代三、五二二圓

九戸郡　久慈九五六圓▽野田三〇八四圓▽種市二、七四三圓▽侍濱七〇圓▽中野三三五圓▽夏井二〇二圓▽長內一二六圓▽宇部四五〇▽合計二〇九、九〇三圓

山田

町民を救つた
三嬢の機轉
電話で直ちに急報
被害甚しい割に死者尠し

（山田にて松本特派員發）五日夕山田町の前、大澤村で中央氣象臺の本多技師、館沼技手一行の自動車と行き遇ふ、田老宮古方面に行く筈。大澤村では縣道筋の家並は殆んど倒壞、木材その他がノコ〳〵と山の手に打ち上げられてゐる。被害程度も甚だしく全村約二百戸の中八十五戸の家屋が倒壞してゐるが死者は一名。愈々山田町に入る。この夜山田町役場に行くと玄關には高張提灯がまたゝいてゐる、役場で被害につき全戸數一千八十三戸の中流失倒壞三百六戸半壞百七十三戸浸水二百三十九戸被害總戸數七百十八戸に及び發動機破損二十個漁船流失三十一艘、同破損百二十二艘、百數ヶ所の捲網はキレイさつぱりと流失したがこの損害約五十萬圓と調査結果を發表した。これによつて山田町の水害は釜石町のそれを遙かに越してゐる、通信機關不通で今まで知れずにゐた眞相が判明した譯であるが損害が多いのに比すれば死者は僅か十名內外に止まつたのは不幸中の幸だつた

津浪の夜、地震襲來に山田町民は枕を蹴つて直ちに飛び起きたが間もなく大槌郵便局から只今沖が鳴つてゐるから津浪が來さうだとの報が山田郵便局に入つた、山田郵便局の當直交換手沼崎チエ子、內舘アキ子、澤チヨ子さんらは突嗟に先づ念のため一應再び大槌郵便局に聞ひ合せて見ると今度は電話の音波に乘つて津波だ津波だと云ふ聲がかすかに聞えて來た、この報に三人の交換手達が直ぐさま百餘の加入者全部に津波襲來をつげ町民はこれを聞いて時を移さず龍昌寺、八幡神社境內役場等山の手高臺方面へどん〳〵逃げ出したので死者を少なくし得た、大槌並に山田郵便局交換手の氣轉又偉大なものがある

田老村死者多し

（宮古にて菱谷特派員發）田老村の遭難死者は調査につれ豫想外に多く山中避難者の歸村も殆んど終り萬が一とあはい望みをかけてゐた家族達も斷念の已むなきに至り一方死體は各地に漂着し當局員は古い戸口調査簿に基づいて調査した。五日午後六時現在迄に判明した死亡者は實に九百六十名に達して居り結局千名に上るものと見られてゐる

行方不明依然
一千百七十一名
午後六時現在調

六日午後六時現在被害現在調べは午後九時半非常警備司令部で發表したが左の通りである

◇家屋の被害　流失二、八三四戸（全八一七戸半三〇七戸）燒失二〇九戸、浸水床上三、一二九戸床下五八三戸

◇人の被害　死者一、四〇〇名、負傷者五六一名、行方不明一、一七一名

市青年應援

盛岡市各青年團員及び米內青年等三十一名は七日午前六時五分發で宮古町に勞力應援の爲め出發する尚岩手郡太田村青年團四十名も同日出發する

斷崖の頂で
命拾ひ
特派員一行
ブナ峠で

（山田にて松本特派員發）五日夕五時四十分頃宮古町山綜方『岩五八五』號自動車を伊藤秋治が運轉し宮古町を出發し閉伊根、大澤村境の縣道ブナ峠頂上に差かゝるや自動車は不用意にもタイヤにチエーンを附けてゐなかつたので、積雪のために滑り進行不能に陷り車輪がグル〳〵と二三回空轉した瞬間右後車輪がアッといふ間もなく道路からはづれガラ〳〵と音響を立て顚覆し出した、幸ひ崖の中央にある大木に辛うじて車體が突き當り奇蹟的にも數丈の谷底に顚落せずに助かり乘客の盛岡測候所地震係主任二宮三郎氏並びに記者、寫眞班員、大阪市の會社員らは頭部その他を強打したのみで怪我を免れた一方顚覆と殆んど同時に宮古行き『岩八〇八』號自動車が反對の方向から疾走し來つたがカーブの見透しがつかず頂上に來て始めて我々の自動車を認め避けんとしこれ又空轉に陷り反對側の堀割に突入してしまつた、車體は乘客や驅けつけた附近村民の手で押し上げたがこれが爲自動車は約二時間遲れて同夜八時漸く山田に到着した

山崎事務官來縣

文部省山崎事務官は七日午後三時二十一分一關驛着で來縣震災狀況を視察する

常彦丸（大阪）
津波以來不明

（釜石電話）船籍大阪市常彦丸（一千五十トン乘組員二十名）は三日未明津波の際氣仙郡越喜來沖合に於て行方不明となつたので六日海軍省から釜石に碇泊中の軍艦いなづまに打電し來つた

死亡者調べ

六日午後十時現在官公吏、有力者小學兒童の死亡は村長、助役、收入役、町議各一名宛、村議七、三等郵便局長、土木技手、山林技手各一名宛、小學教員男三、女三、小學兒童三四四名

罹災地初の
傷害事件
實母を毆る
津波で頭が變になり

（宮古電話）下閉伊郡重茂村大字乙部伊藤次郎（二四）は五日午前十時半頃自宅臺所に於て實母ひで（五七）の頭部を長さ二尺五寸直徑二寸五分の薪で毆打し人事不省に陷れた急報に接した係員が驅けつけ同人を取押へ直ちに宮古に護送して保護留置をなすと共に被害者には醫師の手當てを加へて居る、右次郎は昭和六年步兵第三十六聯隊に入營中精神に異狀を來し翌七年除隊し自宅にて療養中であつたが暴行の原因は同日次郎が母ひでに體の具合が惡るいから醫者にみせて呉れと云つたところ、ひではお前は醫者にみせても藥を吞まないから駄目だと云はれそれに津波で精神がみだれて居たもので右の行爲に及んだものである

紀念館慰問

市內紀念館では今回の震害地の罹災民救出の一助として八日より十四日迄第一第二兩館を開放し本紙愛讀者同情映畫慰問の夕を開催し純益金は全部罹災地に贈る事となつた因みに料金は最低十錢となす由

視察代議士連
歸途車中で暴行
被害者は國士舘柴田氏

（東電）六日午前六時五十五分上野驛着青森發常磐線廻り急行二〇二列車が五日午後十時三十分仙臺を發して間もなく仙臺から乘車した政友會から派遣された三陸地方罹災地慰問使上野基三、永田良吉、金光庸夫の三代議士及び仙臺から同行した佐藤庄太郎代議士の一行は食堂車から泥醉して二等寢台に歸りあたりかまはず放歌高論し傍若無人の振舞ひを續け同乘客の安眠を妨害するので寢台車にあつた之又震災慰問の歸途にあつた國士舘々長柴田德次郎氏がその不謹愼をなじり注意すると上野代議士は何を生意氣だといきなり所持のステッキを振りあげ柴田氏を滅茶苦茶に毆り柴田氏は非常に憤り歸京の上告訴する旨宣言し[illegible]件として兇器ステッキを押收した

三萬圓の金庫
搔拂つた怪船
例の赤崎流失事件

去る三日の津波で三萬三千圓在中の金庫を流失した氣仙郡赤崎村有田組事務所ではあの騷擾の際であり午後七時頃になつてそれと判り此の旨盛署に屆出でたが避難した某の話によると午後二時頃船籍不明の發動機船稻荷丸が同村の港で金庫をかつさらひ逃走したといふ奇怪な事實を話し同署の耳にも入つたので此の旨縣刑事課に報告したので刑事課でも捨て置けず縣下は勿論全國各地に手配した

けふの天氣

內陸部　北西の風時々曇つて小雪がちらつきますが大体天氣よろしいです

沿岸部　北西の風晴れたり曇つたりで一寸小雪がちらつきますから海上は多少の波がありますから注意を要します

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。